

生命誕生

菊池準子
KIKUCHI Junko

愛媛県公立小学校教諭

「いのち」の授業づくり

いのちの授業づくりには、他の授業にはない魅力があります。

一つ目には、教師が一人の人間として子どもと向き合い、自分の言葉で「生きていること」「いのちのこと」を語り合うことができます。学級担任なら、他教科の授業との関連を考え総合単元として取り組むことで、幅も厚みも増した学習にすることができます。

だれにでも、いのちのはじまりがあり、今の自分がここに存在しています。でも、そのことを心から喜ぶどころか、認めることさえできない子や、心の中に自分のいのちのは

じまりについて言葉には表すことはできないけれども、何かしらもやしたものを抱え込んで生きている子もいます。二つ目には、「今あるこのいのちを懸命に生きている」というスイッチを入れることができる力があることです。

「いのち」の授業には、「いのちのたんじょう」を真正面から学ぶものと、「今生きているいのちをみつめる授業」も必要だと考えます。その、両方の実践を紹介します。

「いのちのはじまり」の科学的な事実を、友だちと考えながら学ぶ授業

人（お父さん）から、もう半分は女の人（お母さん）からもらってできた受精卵。

○小さな小さな受精卵が、一人の人間として生まれてくるまで、お母さんのおなかの中（子宮）で大きくなる。

○赤ちゃん（自分）が一人前に育つためにお母さんには子宮があり、そこで自分も育った。

○へその緒と胎盤を通して、栄養と酸素を受け取っている。ただし、胎児の血液は胎盤までしか流れておらず、母親の血液が流れているわけではない。

○子宮の中で受精卵から、約3キロの赤ちゃんまで、それは、りんごが体育館二つ分の大きさになるくらいまで大きく育つたのと同じでめざましい成長をする。

○生まれてもよい頃になったら、赤ちゃんが自分からお母さんに合図を送る。

○狭い産道を、赤ちゃんは自分でからだの向きを変えながら生まれてこようとし、お母さんが赤ちゃんを子宮からからだの外に産み出そうとする力と合わせながら生まれてくる。

○生まれてすぐに赤ちゃんがすることは、自分で息をする

（授業に入りたい科学的な事実）

○自分のいのちのはじまりには、一つの精子と卵子の出会
いがある。

○自分のいのち、今あるからだのはじまりは、半分は男の

人間も、地球に生きる生物です。生命体としてのいのちの誕生の科学的な事実は、他の哺乳類と同じです。ただ、人間は医療技術の進歩により、多様な生まれ方が可能になったり、家族や家庭の在り方も多様で誕生の受け止め方も様々になったりしていますが、精子と卵子が一つの受精卵となり、受精卵自身が生命としてのたくましさをもって、子宮内で大きくなって今生きている自分のいのちができた、このいのちの誕生の科学的な事実は、だれもが同じです。

その事実を知るだけでも、自分がここに生きていることが、ただ事ではないことが分かります。「生まれてきてよかった」この言葉が子どもから出る授業になるには、どんな科学的な情報を子どもに伝えたらいいかをまず挙げてみて、授業を組み立てました。



写真①・子宮の模型写真

こと（産声は、息をはじめた証拠）。目が見えないの
 においでおっぱいにたどりつき、おっぱいを飲むこと
 もできる。必死で自分で生きようとする力がある。

短い1〜2単位時間の授業ですが、このような科学的
 な事実を3年生にも分かりやすい言葉と資料を使って、
 子どもたちとクイズを解きながら学んでいけるように取
 り組んだ授業の記録を紹介します。この学びは、全部数
 年前の自分のこととして学ぶことができるようになってい
 ることが大前提です。つまり、これから出てくる「赤ちゃ
 んⅡ自分」です。赤ちゃんになつて、授業が進みます。

3年性教育「大切ないのち」授業記録

君たちは、どうして今ここにいるの？ 考えたことがあ
 る？

今日の勉強は あなたのいのちのはじまりは？ です
 （課題を示す）。

この小さな受精卵に、心臓になるところ、手になると
 ころなど、人間になるためのあらゆる情報が全部入ってい
 るのです。ほうせんかの小さな種から、茎も葉も花もで
 きたように、この受精卵に人間のからだができる全ての
 情報が入っているのです。

みんなが大きくなったのは、お母さんのお腹の中のどこ
 かしら？（子宮の模型写真①を出して）。
 子宮ですね。その子宮は、腰骨に守られてこのあたり

さて、君たちに質問。お腹の中のいのちの始まりの大き
 さは？ アゲハのたまごの大きさはどのくらいだった？ 1mm
 くらいだったね。にわたりのたまごは5cmくらいかな？ 君
 たちのいのちの始まりの時の大きさはどのくらいでしょう。

- 1 鶏の卵より大きい
 - 2 アゲハと鶏の間の大きさ
 - 3 アゲハの卵くらい
 - 4 アゲハの卵より小さい
- グループで話し合ってみましょう。

正解は、4番。

実際にどのくらいの大きさか見せてあげるよ（教卓の
 前に皆を集めて、小麦粉の粉をガーゼ2〜3枚を通して
 黒画用紙に落とす）。この、粉一粒の大きさ、これが君た
 ちのいのちの始まりの受精卵の大きさ。受精卵は、男の
 人のいのちのものとの精子一つと、女の人のいのちのものとの
 卵子一つが女の人のおなかの中で一つになったものです
 （受精卵の写真を見せる）。

にあります。（腰骨の間に子宮の模型を当てて説明）精子
 と卵子が出会ったのは、この細いくだの中（卵管を指す）
 この受精卵は子宮の壁にしっかりと根っこをはって大き
 くなっていくのですが、受精卵になつても根っこをはれない
 受精卵もあるのですよ。だから、君たちは、受精卵のと
 きから生まれてくるために子宮の壁に根っこをはったので
 すね（写真②を見せる）。このように、子宮の中では、羊
 水というお水の中に浮かんでいるのです。大変！おぼれな
 いのでしょうか？

いいぞ、問題



写真②・胎児 出典：『おなかの赤ちゃん』講談社

- さて、赤ちゃんは、おなかの中で息をしているのでしょうか？
- 1 水の中なので、生まれるまで息はしない。
 - 2 鼻で息をしている。
 - 3 鼻ではないところで息をしている。
- グループで話し合ってみましょう。

正解は、3番。

この写真②の赤ちゃんの大きさはどのくらいか、実物の大きさを予想してみましょう。正解は、このくらい（粘土と写真を見せる）。

写真③の赤ちゃんにひものような物がついていますね。これはへその緒といって子宮の壁にくっついている胎盤とつながっています。みんなのように鼻では息をしていないけれど、このへその緒を通して酸素をもらっているのです。大きくなるための栄養ももらいます。（お母さんのおなかの中での小さな受精卵が身長50cmまで大きくなるのですよ。）

みんなは、毎日ご飯を食べてはうんちやおしっこをして、元気に大きくなっていますね。

おなかの赤ちゃんは、うんちやおしっこをしているのでしょうか？

- 1 うんちもおしっこもしている
- 2 うんちはして、おしっこはしない
- 3 うんちはしない、おしっこはする
- 4 うんちもおしっこもしない

さあ、グループで話し合ってみましょう。

正解は、3番。

赤ちゃんは、羊水をゴクンゴクン飲んで体の中できれいにこして、おしっことして出しているのです。きれいにした時の羊水の中のゴミはうんちになります。それは生まれるまでおなかの中のためにためておきます。みんなが元気で運動をしているので健康なように、赤ちゃんもおなか

次の問題

人間のからだのすべてのものであがるのは、どのくらいの大きさになったときでしょうか？その大きさを手で表してみましょう。

粘土模型で作った3ヵ月あまりの胎児（写真③）と写真②を見せる。



写真③・粘土模型の3ヵ月あまりの胎児
（右は一円玉）

の中で動いているのですよ。

さて、もう、生まれてくることができるくらい大きくなりましたよ。小さかった受精卵が、もしリンゴの大きさだとしたら、生まれる前のあなたは、体育館二つ分と同じくらいの大さきになるのですよ（臨月の胎児の写真を見せる）。いよいよ生まれます。握りこぶしくらいで、丈夫で厚かった子宮も、大きなスイカくらいの大さきになり、子宮の壁もゴム風船のように膨らんで薄くなっています。

ここで最後の問題。生まれる時を決めるのはお母さんか赤ちゃんか？

- 1 赤ちゃん
 - 2 お母さん
- さあグループで話し合ってみましょう。

正解は、1番。

「もう、お母さんのおなかの中では窮屈。もうおなかの外でも大丈夫だよ」と、お母さんに信号を送ったら、お

母さんのおなかが赤ちゃんを押し出すように縮み始めるのです。お母さんもこれ以上は自分のからだの中にはおいておけないですね。このときのおなかの痛みを陣痛といえます。君たちは、自分で「生まれてたいよ！」とお母さんに伝えて生まれてきたんですね。本当におめでとう！では一番誕生日が今日に近い〇〇さんに生まれてきてもらいましょう。みんなも手伝ってあげてください（産道体験をさせる）。

さあ、まとめのお話です。紙芝居のはじまりはじまり（今日の授業で学んだことを自作の紙芝居にまとめ、学んだことが頭の中で整理できるようにする）。

今日の勉強を終



写真④・産道体験

今、生きているいのちをみつめる授業や取り組み

「いのちのたんじょう」の授業の中で「自分のいのちですごい」という思いをもった子も、毎日の生活の中で、友達や家族から冷たくされたり、自信を失うようなことがあったりしたら、せっかくいのちについて考えたのに、「なんにも、生きていたっていいことなんか無いし…」という思いになってしまいう子もいます。毎日の生活の中で、自分が生きていてよかったと思うことを感じることができないと、いのちの授業の感動もどこかにいってしまいます。「生きていてよかった」ということを感じることが意識して生活の中につくっていく必要があります。その子の居場所をつくったり、生きている実感を伴う体験（小さなことでもいい。人の役に立ったとか、友だちと協力して何かが出来たとか、昨日よりできることが増えたことを喜ぶとか…）を積み重ねたりすることです。そのために、必ず毎年実践しているのは、家庭での手伝いの奨励です。自分が人の役立つことを実感出来る上に、家事能力の獲得もできます。「自立」した個を育てることに一役かかってい

わって、今どのようなことを思っていますか？生まれたばかりの自分に何か声をかけてみたくないですか？誕生した日の自分にお手紙を書いてみましょう（産道体験は、全員がともに協力し合いながら次の時間にする。写真④）。そして、次のようなことも、折にふれ、授業や生活の中で伝えていきます。というよりは、感じさせたり考えたりする場をつくっていきます。「いのち」の授業は、日々の生活と重なり合っこそ、意味のあるものになると思います。

- もし、今、一緒に暮らしていなくても、あなたのいのちのはじまりはお父さんの精子とお母さんの卵子からもらったいのち。
- そのいのちが今まで大きくなるまでには、自分もがんばったし、周りの人もたくさん支えてくれた。
- みんなみんな、こうやって、今、生きている。

ると思っています。

また、学級懇談会などでお家の方に、「心の栄養」になるような言葉掛けをしてくださいとお願いもします。『あなたが生まれてよかった』『あなたがいてうれしい』など、親でなければ言えない言葉を掛けるのは親でなければできない性教育ですよ」と、話しています。もちろん、親でなくてもいいのです。「君がいてうれしい」は、周りの誰でも掛けられる言葉です。

もう一つは、今まさに、生きていることを実感できる、自分のからだのところを見つめることができることを意識して取り入れることです。生きている生命体としての見事さを自分のからだから感じたり、成長し続けている長期の自分からだの変化を受け止めたり、また、人間として様々な感情をもちながら、人とかかわりながら生きていく自分を意識的に見つめさせたりします。性教育や保健の授業はもちろん、健康診断や各種の検査や検診、朝の健康観察、病気の子がいたり、けがをした子がいたりしたときも、日々どんなことからからだの学習ができます。

私の学級では、「今日の朝はバナナうんちで気持ち良かった」なんて会話も出てきます。また、友だちとのけんかやトラブルも、こころの動きを明らかにするいい機会です。今、どのような気持ちなのか、相手の気持ちはどうなのか考えさせます。また、「やった!」「うれしい」といった感情も共有する場をもちます。「生きているということとはうれしいことも悲しいこともある。前より、いろいろなことを考えたり気付くようになったりすることは成長だよ」と、からだの成長と共にこころの成長も互いに認め合う場をつくります。

今、改めて「いのち」の授業を見直すときに「科学」「人権」「自立」「共生」の4本柱の視点の大切さを感じます。

○「科学」は、生命体としての誕生の事実を正しく学ぶこと、自分のからだの仕組みや成長を正しく学ぶこと

○「人権」は、自分が人として大切にされているか、また、自分は周りの人を人として大切にしているか分かる人権感覚をみかくこと

○「自立」は、自分が一人の人間として、自分が生きる意味も考えながら、自分のことは自分の責任でできる力をもつこと

○「共生」は、そのような自立した個が、互いを尊重しながら共に生きることができること。

この4つの視点の中の何かが欠けていることが、「いのち」が軽んじられるような問題を生んでいるように思えます。性を学んだり、毎日の生活の中で経験をくぐりながらこれらのことを感じたり考えたりすることで、自分のいのちの成り立ちを知り、自分の生き方の中で自分自身が新しいいのちをもつということについて考えたり、パートナーと話し合ったり、自分で決めたり、受け入れたりする力が育つ。科学に裏打ちされた正しい知識や判断力を持ち、人権感覚をもった、性的に自立した個を育てることが、互いの「いのち」を尊重できる、共生ができる人間を育てることにつながるのではないのでしょうか。